

# 世界の民族問題の学習指導内容について

和田 文 雄\*

## I はじめに

民族問題に起因する地域紛争は現在、世界各地でさまざまな形で表面化し、地域においては深刻の度を一層深めている。

ある調査によれば、世界の過半数の国家が国内の民族問題による分離運動に悩まされているといわれ、民族問題は現代世界に共通の課題である。

確かに、二十世紀は「民族の世紀」といわれ、民族問題自体は最近にはじまったものではない。

しかし、民族問題がこのように大きな問題として扱われるようになったのは1980年代後半からのソ連の崩壊とそれとともなう東欧、とりわけユーゴスラビアの内紛など社会主義政権の崩壊により民族間の矛盾および対立が一気に表面化したからである。

このような現代社会の大きな変化としての世界の民族問題を高等学校の地理でいかに授業展開するかについてここでは考えてみたい。

世界の民族問題を地理の授業で扱うことの意義は、それがジャーナリスティックな意味での大きな問題であるだけではない。

この問題を学習することの意義は、それが国際理解学習としての文化理解学習でもあるということがまずあげられる。世界の諸地域の人々の生活様式や、生き方・考え方など学習である文化理解学習の重要性は近年、地理教育においても強調されているところである。

そして、さらに重要なことは、それが人種および民族差別の問題を学習するという人権学習の側面をもっているという点である。地理学習においては、現代の状況に即した「民族の尊厳」を常に考えていかなければならない<sup>1)</sup>し、従来、地理教育において人権学習の視点にたつ学習内容は十分であるとはいえず、その意味においてもこの学習の意義は大きい。地理教育振興のための国際標準ガイドラインとして1992年8月に制

定された国際地理教育国際憲章も、その第2章「課題と対応」で現代世界が直面する主要な問題のひとつに民族紛争をあげ、その解決には、すべての世代の人々がその問題に関心を持つことが求められているとし、これはよりよい世界を築くため、すべての人々に働く希望と確信を、そして力を与えるための仕事をしている地理教育関係者につきつけられた課題である<sup>2)</sup>としている。

同憲章はさらに第5章「地理教育の内容及び概念」の2)系統地理学習で、それにふくまれる問題重視学習の学習主題のひとつとして「人種、性、宗教に基づく不平等」をあげており<sup>3)</sup>地理教育におけるこの学習の意義が国際的にも認められていることには注目する必要がある。

世界の民族問題は後述するように平成6年度より新しく実施される新学習指導要領における地理歴史科の地理Bにおいてその学習内容として扱うことが明記されている。

本論では高等学校の地理教育における世界の民族問題に関する学習指導内容について新学習指導要領をてがかりとして検討し、それをふまえて作成した具体的な学習指導案を提示する。

## II 世界の民族問題に関する教材研究について

世界の民族問題の教材化については問題そのもののむつかしさ、複雑さから実際の授業展開に対する慎重論<sup>4)5)</sup>もあり、これまであまり重要視されていなかったようであるが、それを地理学習の内容としてとりあげることには上述のような意義がある。

世界の民族問題の学習指導案の作成にあたり、その基本的視点ならびに内容を明確にするために、まず学習指導要領から検討することにする。

現行の学習指導要領(昭和57年度より実施)は「人類の諸集団と生活」の学習で「世界の各地の主な人類諸集団の生活の多様性に気づかせる」としている<sup>6)</sup>

また「国家と民族構成」の学習で「国民の民族構成

\*広島大学付属福山高等学校

と生活などについて考察させ、民族構成からみた国家の特色について理解させる」とし<sup>7)</sup> 直接、民族問題には触れてはいない。現行の教科書においては民族問題について教科書によっては世界の民族問題の名称のみを示したものがみられるが、それについての記述はほとんどなされていない。

新指導学習指導要領の地理歴史科では地理Bにおいて、その目標を世界の人々の生活・文化に関する地域的特色の学習を中心<sup>8)</sup> とし、その大項目「人間と環境」の中項目「人種・民族と国家」で「人種・民族及び人間の生活・文化の特色を国家とも関連付けて理解させる」<sup>9)</sup> としている。そしてその解説で「『人種・民族と国家との関係』については、人種・民族と国民との関係や国内における諸民族の対立、協調の問題など、人種・民族と国家との関係及びそれをめぐる問題について、地理的に考察させることが効果的な事象に着目して、事例を扱うようにする」<sup>10)</sup> とし、民族問題を学習内容として扱うことを明記している。ただ、解説では「人種・民族と国家」の学習については「世界の人々を人種・民族という観点から地理的に理解させるとともに、人種・民族と国家との関係やそれをめぐる問題について考察させる」とし、「人種・民族と国家」の学習内容として民族の文化理解と民族問題とをあげている。<sup>11)</sup>

世界の民族問題を具体的にとりあげ、指導する時には必ずその問題の要因について考察させなければならないが、そこでは当然、その問題を理解する前提及びその要因として、事例としてとりあげられた民族の文化に関する理解が不可欠である。そのことを前提にして民族問題の学習指導案は作成されなければならない。民族の文化理解と民族問題の学習内容としての位置付けはそのように考えるべきである。それらを並列的に扱うと民族の文化理解と民族問題学習とが分離してしまい、前者が結果的には異文化に対する興味本意な学習に流れる危険性があるのではないだろうか。

民族問題は社会の問題であり、社会の変化により表面化する。そのいっぽうで民族問題は社会の変化をもたらす。このことへの理解は新学習指導要領全体の目的のひとつである「社会の変化に対応できる能力の育成」につながるものである。また、上述のように民族問題の学習は文化理解学習をとまなうものであり、これは新指導要領の基準改善点のひとつである「文化の尊重と国際理解の推進」の学習でもある。

以上から民族問題の学習は新学習指導要領を代表す

る特徴的な学習といえる。

新学習指導要領では事例主義が採用されている<sup>12)</sup> が、これは民族問題の学習に不可欠のことである。

また、新学習指導要領においては課題の考察が大幅に導入されたことも大きな特徴であり、このことは民族問題の学習の教材研究にとっては大きな改善である。

民族問題学習の教材研究にあたっては単にその問題を生徒に概説的に紹介するのではなく、その要因を生徒に分析・考察させねばならないことをまず留意する必要がある。そのためにはその歴史的な背景を必要に応じてふまえることは当然であり、事例としてとりあげられた民族の文化的特徴もある程度深く把握しておかねばならない。

学習指導要領は、各学校が教育課程を編成するための基準を定めたものであり、どのように授業展開するかは現在の教師に委ねられている<sup>13)</sup> ことをここで確認する必要がある。

ここで平成6年度より使用される地理Bの8冊の教科書の民族問題に関する記述内容について検討してみる。

まず全体を通していえることは民族問題に関する扱いが教科書により、かなり異なっていることである。

いずれの教科書も民族問題について少なくとも概括的、総論的な記述はなされている。

しかし、世界の民族問題について概説的に触れているものから、複数の事例を具体的にとりあげているものまで、教科書によりさまざまであり、それぞれに特色がみられる。その記述内容も教科書によりかなりの相違がみられる。

民族問題の事例を扱っている教科書では、民族問題について記述がされていない国または民族とそうでないものがとりあげられており、民族問題についての記述がなされていない事例では民族の生活と文化のような文化理解を中心とした内容となっている。その内容は食生活・言語及び宗教についての特色が述べられており、記述の重点は事例としてとりあげられた民族により異なっている。

次に、各教科書でとりあげられた世界の民族問題の事例の内容についてみる。事例として一番多くとりあげられているのはパレスチナ問題であり、8つの教科書のうち3つがとりあげられている。これに次ぐのがスリランカの民族対立、北アイルランド問題および南

アフリカの人種差別である。そして東チモール問題、ナイジェリアの民族対立、ベルギーの民族対立、合衆国の民族・人種対立、ケベック問題および旧ユーゴスラビアの民族対立がそれぞれ一つずつとりあげられており、その事例は多様である。

わが国の民族問題である在日朝鮮・韓国人やアイヌ人の問題を扱った教科書もあり、注目される。

いずれの教科書の事例についても民族問題の実態とその要因に関して詳しい記述はなされておらず、概説的である。教科書の記述には分量の制限もありやむを得ないが、少なくとも民族問題の学習に関するかぎり教科書のみで指導することは適切とはいえず、民族問題の事例をとりあげ、その実態と要因をある程度掘り下げた学習指導案を作成する必要がある。

### III カナダの民族問題の学習指導案

世界の民族問題の事例をとりあげる時、なぜその事例をとりあげるのかという、その基準としての根拠は重要である。

題 目 カナダの民族問題について

- 目 標
- ① カナダ最大の民族問題であるケベック問題の歴史的背景を理解する。
  - ② ケベック問題の実態を言語および文化の問題を通して考察し、理解する。
  - ③ カナダの少数民族および先住民の問題について理解する。
  - ④ カナダを通して多民族社会としての国家のあり方を考察する。

授業展開例

	発 問	教授・学習活動	資 料	到達目標（生徒から引き出したい知識）
導 入	・なぜケベック州はカナダの憲法に「歴史的に独自の性格を持った社会」と規定されているのだろうか。	T：課題提起		
展 開  ①	・カナダの位置と国土の広さを確認しよう。	T：発問する P：答える	地図帳	・997.6万平方キロ、日本の約26倍
	・気候にはどのような特色があるか。	T：発問する P：答える	地図帳	・国土が北に位置しているためその大半が亜寒帯および寒帯に属している。
	・大地形の位置を確認しよう	T：発問する P：答える	地図帳	・ロッキー山脈、内陸平原地帯、カナダ楯状地およびアパラチア山系である。
	・人口とその分布について調べ、その特徴を述べよ。	T：発問する P：答える	地図帳	・人口約2,650万人（'89年推計）人口密度2.8人北方の2準州は392万平方キロもあるが人口わずか7.1万人にすぎない。 ・国民の8ないし9割は合衆国から200キロ以内に住む。
	・カナダ連邦を構成する州の名前と位置を確認しよう	T：発問する P：答える	地図帳	
	・ケベック州の位置と広さについて	T：発問する P：答える	地図帳	

ここで民族問題の学習指導案として、典型的な多民族国家であるカナダの民族問題を事例として「ケベック問題」に焦点をあて、作成したもの<sup>14)</sup>を提示する。

カナダの民族問題を事例としてとりあげた第一の理由はカナダにおいて民族問題の中心が、その住民の圧倒的多数がフランス系であるというケベック州という地域的展開をみせているという点にある。

次に、カナダで「ケベック問題」はただ民族間の対立のみならず他のヨーロッパ系少数民族や先住民といったマイノリティーの権利意識の高揚とその具体化にも大きく寄与している。そして、さらに重要なことは、カナダではただ民族間の対立のみでなく協調もみられることである。<sup>15)</sup>

カナダにおいて多民族社会であることは国家成立の前提であり、民主的な方法で、民族間の対立を解消し、その「平和共存」を図ろうとしてきたという歴史的経緯がある。<sup>16)</sup>カナダにおける民族問題は多民族社会としての国家のあり方まで考察できる発展性のある適切な事例であるといえる。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>ケベック州で最大の民族は。</li> </ul>	T:資料提示 P:答える	資料1	<ul style="list-style-type: none"> <li>フランス系が圧倒的に多く80%以上を占める。</li> </ul>
展 開 ②	ケ ベ ッ ク 問 題 の 歴 史 的 背 景 に つ い て	<ul style="list-style-type: none"> <li>現存のケベックは最初はこの国の植民地であったか</li> </ul>	T:発問する P:答える		<ul style="list-style-type: none"> <li>現在のケベックを含むフランスの北米植民地（ヌーベルフランス）は1663年フランス国王の直轄地となった。</li> <li>北米におけるイギリスとの抗争に敗れる</li> <li>1963年の「パリ条約」で、フランスは北米大陸の全領土を失う。</li> <li>イギリスへの同化政策の実施が困難である。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜケベックはイギリスの植民地となったのだろうか</li> <li>当時、ケベックの住民のほとんどはフランス人であったが、このことはイギリス政府にとっては何を意味するか。</li> <li>当時、北米におけるイギリス領の13植民地（後のアメリカ合衆国）はどのような動きをしていたか。これはケベックに対するイギリス政府にどのような不安を与えたか</li> <li>イギリス政府はケベックに対してどのような植民地政策をとったか。</li> <li>この政策はケベックに対して何を意味するか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>T:発問する P:答える</li> <li>T:発問する P:答える</li> <li>T:発問する P:答える</li> <li>T:発問する P:答える</li> <li>T:発問する P:答える</li> </ul>		
展 開 ③	ケ ベ ッ ク 問 題 に つ い て	<ul style="list-style-type: none"> <li>カナダの公用語は何か。</li> <li>現在フランス語はどのように扱われているか。</li> <li>英語が優位であることはフランス語のみを話す人にとっては何を意味するだろうか。</li> <li>1960年代はじめケベック州ではブルーカラーの仕事に従事する人はフランス系が多く、企業家、専門職、管理職のほとんどはイギリス系であった。このことは収入面でどんな意味があるか</li> <li>言葉は社会的昇進の手段として重要であるが、その他にどのような意義をもっているか。</li> <li>英語および英語系住民による文化的・民族的支配は社会にどのような結果をもたらすだろうか。</li> <li>ケベック州で圧倒的多数を占めるフランス系住民はこれに対してどう考えるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>T:発問する P:答える</li> <li>T:資料提示 P:答える</li> <li>T:資料提示 P:答える</li> <li>T:発問する P:答える</li> <li>T:発問する P:答える</li> <li>T:発問する P:答える</li> <li>T:発問する P:答える</li> </ul>	資料2	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語とフランス語である。</li> <li>ケベック州ではフランス語が、ニュー・ブランズウィックでは英仏両語を公用語としているが、他の州では実質的に英語が主要語となっている。</li> <li>フランス語がケベックにおいても社会的上昇の阻害要因となっている。</li> <li>イギリス系とフランス系の賃金格差。</li> <li>当時、ケベック州においてフランス系の平均年収はイギリス系の約半分であった。</li> <li>人々の文化や尊厳やアイデンティティといった根源的な存在と直接的に関わるものであり、その象徴としての大きな役割をもっている。</li> <li>この支配体系は善悪や優劣といった社会全体の価値構造をも規定するようになる。</li> <li>「ケベック州の主人でありたい」との願い。</li> </ul>

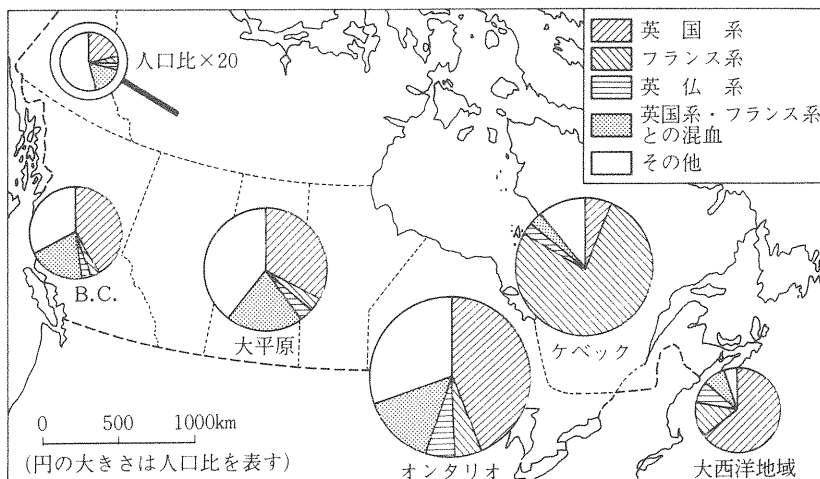
世界の民族問題の学習指導内容について

		<ul style="list-style-type: none"> <li>そのことはフランス系住民にとってどのような政治的 要求となるであろうか。 3つの場合を考えてみよう。</li> <li>なぜケベック州の州民投票 でケベックの分離独立が否 定されたのだろうか。</li> </ul>	<p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>イギリス系と同等の地位を求める。</li> <li>ケベック州と他の州とを区別した特別の地位を求 める。</li> <li>ケベック州のカナダからの分離独立を求める。</li> <li>連邦内にとどまり「特別の地位」を求める選択を したと考える。</li> </ul>
展 開 ④	英 仏 系 以 外 の 少 数 民 族 に つ い て	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ケベック問題は他の少数民族 や先住民族にどのような 影響を与えただろうか。</li> <li>カナダには英仏系以外にど のような民族が生活してい るか。</li> <li>各民族の州別構成にはどの ような特徴があるか。</li> <li>カナダは国外からの流入者 に寛大な態度を示してきた が、このことは何を意味す るか。</li> <li>彼らはどのような権利を要 求しているか。</li> </ul>	<p>T：資料提示 P：答える</p> <p>T：資料提示 P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p>	資料3 資料4	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドイツ人、イタリア人、ウクライナ人など多く少 数民族がいる。</li> <li>イギリス系が多いのはオンタリオ州、ドイツ系が 多いのはサスカチュワン、アルバータ、ブリティッ シュコロンビア州。カナダ西部には東欧系が多い。</li> <li>移民・難民および亡命者が急増し、カナダ社会の 多民族化が一層進んだ。</li> <li>彼らの文化や生活様式の公的認知を求める。</li> <li>彼らの要求は連邦政府に「多文化政策」を採用さ せるに至っている。</li> </ul>
展 開 ⑤	先 住 民 族 の 問 題 に つ い て	<ul style="list-style-type: none"> <li>カナダにはどのような先住 民がいるか。</li> <li>彼らはどのような実態にお かれているか。</li> <li>彼らはどのようなことを要 求しているか。</li> </ul>	<p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：資料提示 P：答える</p>	資料5	<ul style="list-style-type: none"> <li>インディアンおよびイヌイット</li> <li>過去数百年にわたり、屈辱的な地位を強いられる。 自分たちの土地を追われ、伝統的な生活様式を失 い、自尊心まで奪われる。高い失業率。低い教育 レベル、悪い住宅事情など。</li> <li>土地を失ったことに対する補償の要求。 北方準州の先住民による自治政府設立の要求。</li> </ul>
終 結		カナダでは民族問題を解決 するためにどのようなことを 最も大切にしているか。	<p>T：発問する P：答える</p>		カナダ連邦の国家としての存続を前提とし、民主 的な手続きに従って民族問題を解決しようとしてい る。

〈参考文献〉

- 吉田健正 (1992)：カナダの民族問題 地理 37巻10号 49～57ページ  
 西島建男 (1992)：民族問題とは何か (朝日選書)  
 大原祐子・馬場伸也 (1984)：概説カナダ史 (有斐閣選書)  
 馬場伸也 (1989)：カナダ ——二十一世紀の国家—— (中公新書)  
 ラウル・ブランシャール著 滑川明彦訳 (1979)：フランス系カナダ (文庫クセジュ)  
 新保満 (1989)：カナダ社会の展開と構造 (未来社)  
 長部重康他編 (1989)：現代ケベック——北米のフランス系文化—— (勁草書房)  
 綾部恒雄編 (1989)：もっと知りたいカナダ (弘文堂)  
 新保満 (1972)：人種差別と偏見——理論的考察とカナダの事例—— (岩波新書)  
 綾部恒雄編 (1992)：アメリカの民族——ルツボからサラダボウルへ—— (弘文堂)  
 加藤普章 (1990)：多元国家カナダの実験 (未来社)

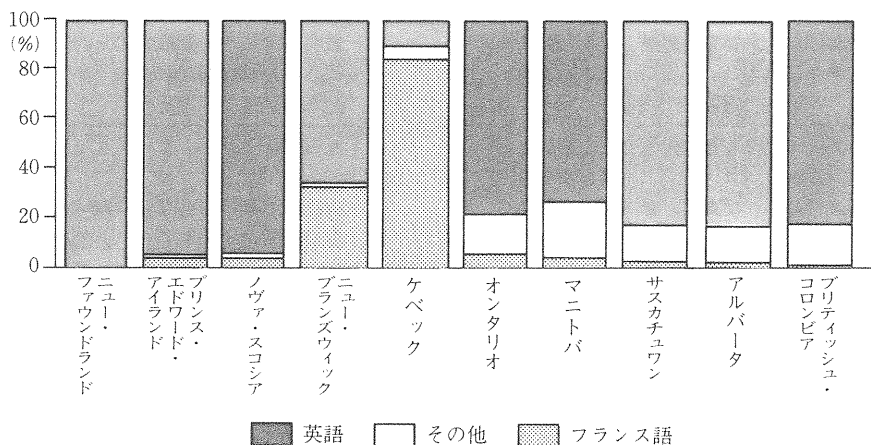
資料 I カナダの各地域の人口比と民族構成 (1986年)



出所：吉田 (1992) p. 53

〔生徒用資料〕

資料 2 州別「母語」人口 (1986年)



出所：綾部編 (1989) p. 86

資料 3 フランス語が社会的上昇の阻害要因となる点について

フランス語しかできない商人は、お客がフランス語系のものだけに限られる。一方、英語ができるフランス語系の商人はカナダの英語系だけではなく、米国の大市場を相手に取り引きできる。同じフランス系であっても、英語ができるかどうかで、取り引きの量に大きな差が出てくる。

これが英語系の商人なら、はじめからフランス語系の客を無視しても、取り引き量の激減に心をわずらわせる必要がない。フランス語系の立場からみると、英語の習得は、自分の社会的上昇と結びついていくということになる。つまり自分たちの言語に執着すると、階層的に上昇を拒まれるという社会的現実がある。

出所：新保 (1989) p. 244

IV まとめにかえて

世界の民族問題を高等学校の地理学習の内容としてとりあげることには意義があり、具体的事例を内容とする学習指導案を作成し、提示したのであるが、その課題と改善の方向について述べる。

民族問題を地理の学習指導案としてとりあげるにはそれを地域性追求の視点からとらえることが重要である。

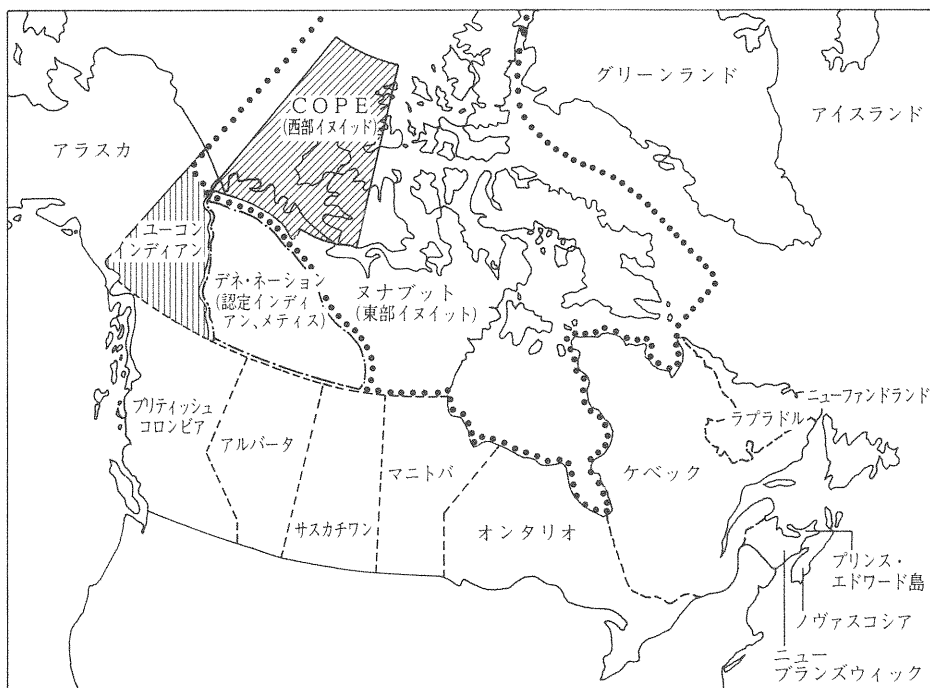
カナダにおける民族問題であるケベック問題を事例としてとりあげたのは、それがケベック州というカナダの行政地域の問題であることがその理由である。しかし、そのことのみをよりどころとし、カナダの民族

資料4 カナダの民族別人口 (1981年)

単一民族系	22,244,885	先住民	413,380
アフリカ人	45,215	北アフリカ系アラブ人	10,545
アルメニア人	21,155	太平洋諸島民	155,290
アジア系アラブ人	60,140	ポーランド人	254,485
オーストリア人	40,630	ポルトガル人	188,105
バルカン人	129,075	ルーマニア人	22,485
バルティック人	50,300	ロシア人	49,435
ベルギー・ルクセンブルグ人	43,000	スカンジナビア人	292,795
イギリス人	9,674,245	スペイン人	53,540
チェッコ・スロバキア人	67,695	スイス人	29,805
中国人	289,245	ウクライナ人	529,615
オランダ人	408,240	西アジア人	10,055
フィンランド人	52,315	その他の単一民族系	176,160
フランス人	6,439,100		
ドイツ人	1,142,365	複合民族系	1,838,615
ギリシア人	154,365	イギリス系とフランス系	430,255
ハンガリア人 (マジャール人)	116,390	イギリス系とその他	859,800
インドシナ人	43,725	フランス系とその他	124,940
インド・パキスタン人	121,445	イギリス系・フランス系・その他	107,080
イタリア人	747,970	ヨーロッパ人とその他	238,455
日本人	40,995	先住民とその他	78,085
ユダヤ人	264,025		
ラテン・アメリカ人	117,555	全人口	24,083,500

出所：綾部編 (1989) p.65

資料5 カナダ北方における自治政府の要求



出所：加藤 (1990) p.81

問題としてのケベック地域が十分その学習内容に組み込めなかったことは指導案の課題として残っている。それは換言すれば、指導案の内容が民族問題を歴史、政治・経済および文化の内容となっており、地理の内容に十分なりえていない。すなわち学習指導要領の指摘するところの「深入り」になってしまっているということである。この指導案改善の内容としては、具体的にはカナダにおける民族問題の最新の実態を地域的観点からミクロにとりあげ、教材化するということがあげられる。そのためにはこれに関する地理的視点にたった最新の統計および資料を収集しなければならないし、当然のことではあるが、カナダの民族問題に関する地理学の研究成果をさらに検討し、ふまえる必要があると考えている。

#### 注および参考文献

- 1) 地理教育研究会編 (1889) 「国際化」時代と地理教育, 古今書院, 216。
- 2) 中山修一訳 (1993) 地理教育国際憲章, 地理科学, 48-2, 48。
- 3) 前掲 2)52。
- 4) 町田貞・篠原昭雄編 (1984) 社会科地理教育講座 2 地理教育の内容, 明治図書, 188。
- 5) 地理教育研究会編 (1879) 新版授業のための世界地理, 古今書院, 288。
- 6) 高等学校学習指導要領解説社会編 (1979) 123。
- 7) 前掲 6)139。
- 8) 高等学校学習指導要領 (1989) 38。
- 9) 前掲 8)39。
- 10) 高等学校学習指導要領解説地理歴史編 (1989) 215。
- 11) 前掲 11)215。
- 12) 澁澤文隆編 (1990) 新「地理Bを創る」, 古今書院, 地理7月増刊, 16。
- 13) 澁澤文隆 (1989) 学習指導要領改訂の主旨と要点, 地理, 34-4, 26。
- 14) 和田文雄 (1993) カナダの国家・民族問題の学習指導案, 公孫樹 (広島県立安芸府中高等学校研究紀要) 第9号 82-89 に掲載した学習指導案を一部修正したものである。
- 15) 和田文雄 (1993) カナダの民族問題をいかに教材化するか, 『地理・地図資料』, 帝国書院 3。
- 16) 和田文雄 (1993) カナダの国家・民族問題について, 広島県高等学校社会科教育研究協議会研究紀要, 第28号 4-11。